

## ～国立口之津・唐津海上技術学校 2校で内航海運講座を開催～

2月7日（金）国立口之津海上技術学校1・2年生48名（うち、女子1名）、  
2月18日（火）、国立唐津海上技術学校1・2年生71名（うち、女子1名）  
の生徒を対象に、内航海運業への就職促進を目的とした出前講座を開催。

主催：九州地区船員対策連絡協議会

九州地区船員対策連絡協議会（九州地方海運組合連合会、全国内航タンカー海運組合西部支部、九州運輸局で構成）では、近年、著しく高齢化がすすむ内航船員の確保・育成対策として、水産系高等学校、海上技術学校等での出前講座や中学校等への学校訪問による海運業のPR、内航海運事業者や船員教育機関関係者等との船員確保・育成対策の協議などの事業を実施しています。

### 【口之津海上技術学校内航海運講座】（2月7日）

同講座では、協議会メンバーである内航海運事業者と九州運輸局職員が講師となって、「内航海運」の重要性や「船員」に必要な資格等の基礎知識、船内の労働環境、雇用情勢等を講義するとともに、地元企業(株)雄和海運社長 浦山氏 からは実際の内航船での仕事や船内生活の紹介、学校で学んでほしいことなど、内航海運会社への就職につながるよう内航海運業界をPRしました。参加した生徒へのアンケートでは、「船乗りへの希望がさらに大きくなった」、「現場の声が聞いて勉強になった」等の意見が寄せられ、内航海運を目差す意欲が強く感じられました。

また、女性船員の活躍について紹介し、女子生徒から「女性船員だけの船舶をつくるという夢を持っている女性の方がいて、自分も船の仕事に責任を持ち取り組みたいと思いました。」といった感想もいただきました。



【九州運輸局 深町課長 増田課長】



【(株)雄和海運 浦山社長】

## 【唐津海上技術学校内航海運講座】（2月18日）

同講座では、地元の佐賀県海運組合の宗田理事長からご挨拶を頂き、内航海運事業者と九州運輸局職員が講師となって、内航海運の重要性や船員としての基礎知識などの講義を行いました。鶴丸海運(株) 東船長からの「内航海運の現状・実務について」では、具体的な作業内容や居住環境、船内での食事など写真等を交え説明を行なうとともに、甲板部・機関部の一日のスケジュールや船上教育・訓練の様子なども紹介するなど、生徒達からは「内航海運の具体的な仕事がかくわしく分かった」との声も寄せられ大変好評でした。中には「作業服のデザイン」を見たいとの質問もあり、ユニホームの写真も紹介されました。

参加した生徒からのアンケートでは、「内航で生活している船員さんのことが聞いてよかった」「船員になったとき、何をすればいいのかよく分かった」「船長の話はとても勉強になり、おもしろく感じました」等の意見が寄せられ、内航海運業の重要性や内航船員の魅力をPRできたと思います。

講座修了後には学校の先生方との意見交換を行い、生徒達の就職に対する意識の推移、企業ガイダンスやインターンシップの状況、内航船員の確保のための効果的な広報活動等について討論しました。



【鶴丸海運(株) 東船長】



【学校との意見交換会】

同協議会では、今後もこれらの取組みを継続し、内航船員の魅力や実態を伝えることによって、内航海運業界への就職と就職後の定着を促し、船員不足及び高齢化の解消に繋がるよう積極的に活動していくこととしています。

※ 全国に4校ある海上技術学校（海上技術短期大学校は3校）は、（独）海技教育機構（JMET S）に所属する船員養成機関で、同校では中学校を卒業した者を対象に船舶職員（航海士、機関士）に必要な海技資格を取得するための専門教育および高等学校と同等資格が付与されるための教育が行われています。3年間の修業期間中には、同機構の所有する練習船による3ヶ月間の乗船実習も含まれていますが、最速で海技資格を取得するためには、卒業後、乗船実習科に進み、更に6ヶ月間の乗船実習を修了することが必要となります。